

1) 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関するこ
と

教職課程の教育目的と到達目標

工学系・情報系・健康医療系の教育カリキュラムと研究環境により、教職課程を設置する各学科・各専攻では、次世代の技術改革を担う技術系職業人の育成を目指す。教科の専門性は、このような専門教育を通じて高められる。同時に、教職教育を通じて、人間性に基づく価値観、歴史観、倫理観を併せ持った人間力豊かな教育者の育成を目指す。各学科の専門教育と連携しながら教員に必要な能力を総合的に育成することで、深い専門知識を土台とした人間性豊かな教員の育成を目指す。

【教育目的】

各学科・各専攻が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教員の育成を目的とする。目標とする人材像は、現代社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を喚起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教員である。

【到達目標】

1. 専門性に根付いた教科の指導力

- (1) 生徒の理解度にあわせて、教科の専門知識を活かした授業を計画できる。
- (2) 基本的な授業技術を用いて、生徒の反応を見ながら授業を行うことができる。
- (3) 自分の考えをはっきり伝え、板書等を使ってわかりやすい授業を行うことができる。

2. 教員としての責任感や教育に対する情熱

- (1) 教員としての責任感や倫理観、使命感を持って生徒と関わることができる。
- (2) 自ら学び続け、成長するための情熱を身に付けている。
- (3) 学習面だけでなく、教育上のさまざまな困難にも情熱と強い意志を持って立ち向かい、自分の責任を果たすことができる。

3. 生徒に対する理解力および指導力
 - (1) 生徒との関わりを大切にし、信頼関係を築くことができる。
 - (2) 生徒との良好な交流を通じて、生徒を的確に理解することができる。
 - (3) 保護者や教職員、関係機関と密接に連携し、生徒を指導することができる。
4. 状況に応じた実践ができる自立性
 - (1) 社会の変化にあわせて、積極的に教養と知識を学ぶ姿勢を身に付けている。
 - (2) さまざまな状況に応じて、自分で考え、行動することができる。
 - (3) 自分の判断に基づいた行動を通じて、成長する姿勢を身に付けている。

資質能力及びカリキュラム・ポリシー

上記の教育目標達成に必要な資質能力、及びそれらを身に付けるためのカリキュラム・ポリシーは以下の通りである。

- ① 教科・教育課程に関する基礎知識・技能：
教科に関する教科書および学習指導要領について学ぶ。教育課程の編成、道徳教育に関する基礎理論・知識を習得し、活用する方法を学ぶ。特別活動の指導方法や総合的な学習の時間の指導に関する基礎理論・知識を習得し、活用する方法を学ぶ。
- ② 課題の探求および解決：
自分自身の課題を認識し、解決策を見つけるための学習姿勢を育むことを学ぶ。学校教育における課題、特にいじめ、不登校、特別支援教育などに関心を持ち、これらの課題に対する自分なりの解決策や意見を形成することを学ぶ。
- ③ 学校教育についての理解：
教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務について学ぶ。教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得し、活用する方法を学ぶ。学校教育の社会的・制度的・経営的側面を理解するための基礎理論・知識を習得し、活用する方法を学ぶ。
- ④ 子どもについての理解：
生徒個人や学級集団の理解に必要な心理学と発達の基礎理論を学ぶ。いじめ、不登校、特別支援教育などに対して、個々の生徒の特性や状況に応じた対応方法について学ぶ。
- ⑤ 他者との理解・協力：
他者の意見やアドバイスをしっかり聞き、協力し合って課題解決に向かう方法を学

ぶ。自分の役割を率先して見つけ、その役割をしっかりと果たす方法を学ぶ。保護者や地域との連携の重要性を理解し、他者と協働して授業を計画・運営・展開する方法を学ぶ。

⑥ 教育の方法および指導法：

- (a) 授業構想力：教材研究を生かした授業を計画し、生徒の反応を想定した指導案を作成する方法を学ぶ。
- (b) 授業展開力：生徒の反応を取り入れ、協力的に授業を展開する方法を学ぶ。
- (c) 学級経営力：効果的な学級経営案を作成する方法を学ぶ。
- (d) 表現技術：黒板等の使い方や質問の仕方、話し方など、授業での効果的な表現方法を学ぶ。
- (e) ICT活用能力：情報技術の基本理論と知識を教育に活用する方法を学ぶ。
- (f) 教材開発力：教科書の題材にあわせた教材や教具の開発と作成の方法を学ぶ。

⑦ 教育実践・パフォーマンス：

授業における教員としての適切な態度や振る舞いについて学ぶ。生徒の関心や注意を引く効果的な発声方法などについて学ぶ。演劇や演奏の即興性（インプロビゼーション）を通して、フレキシブルに動ける方法を学ぶ。

⑧ コミュニケーション：

挨拶や言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的なマナーについて学ぶ。生徒の発達段階に応じたコミュニケーションの方法について学ぶ。生徒に対して公平で受容的な態度で接する方法を学ぶ。

⑨ 教員として必要な一般教養：

人間性に基づく価値観や倫理観を学ぶ。国際化や情報化など社会の変化に適応するための知識や技能を学ぶ。

⑩ 教科の専門性：

所属する学科の教育プログラム全体の中で、専門的な学修を通じて学ぶ。